

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	愛知県指定第2375601651号
法人名	社会福祉法人カリヨン福祉会
事業所名	グループホームカリヨンの郷「新千秋」
訪問調査日	平成 19年 11月 4日
評価確定日	平成 19年 12月 14日
評価機関名	特定非営利活動法人「サークル・福寿草」

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	愛知県指定第2375601651号		
法人名	社会福祉法人カリオン福祉会		
事業所名	グループホーム カリオンの郷「新千秋」		
所在地	497-0043 愛知県海部郡蟹江町大字新千秋字後西33番 (FAX)0567-95-6631 (電話)0567-95-6621		

評価機関名	特定非営利活動法人「サークル・福寿草」		
所在地	453-0021 愛知県名古屋市中村区松原町1丁目24番地N203		
訪問調査日	平成19年11月4日	評価確定日	平成19年12月14日

## 【情報提供票より】( 年 月 日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 11月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 5 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 4.4 人	

※常勤は専任3人、兼務2人

### (2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	階 ~	2 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	57,000 円	その他の経費(月額)	管理費28,000円、娯楽費3000円	
敷 金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,400円(月42,000円)	

### (4)利用者の概要( 月 日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 80.9 歳	最低	58 歳	最高	95 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	愛知県厚生農業協同組合連合会「海南病院」・「前田内科」
---------	-----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームの運営法人は社会福祉法人であり、特別養護老人ホームやデイサービスをはじめ様々な介護サービスを提供している。ホームはのどかな田園の中に立地しており、1階がデイサービス、2階がグループホームになっている。2階のフロアは、2ユニット分の面積が確保されているが、現在のところ1ユニットのみとなっており、空いているスペースは、地域住民の交流の場として利用できるようになっている。ホームは、法人理念にあるように利用者の尊厳を重視し、利用者中心の生活支援をモットーに運営されている。利用者スタッフの間には親子・兄弟姉妹的「擬似家族」のような強い信頼関係で結ばれており、若男女が共に生活しているという雰囲気が伝わっている。各種の記録も事細かに記入してされており、利用者それぞれの状況が具体的に分かる様になっている。この素晴らしい取り組みについて利用者の家族のほとんどが納得しているのも頷ける施設である。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>介護記録等に職員の閲覧印がなかった為、情報の共有という点で不十分な感じを受けたが、追加変更されることにより改善された。薬の管理・危険物の管理もしっかりと改善されたようであるが、居室に利用者なじみの家具を使用するのはまだ家族に声かけが必要だと思われる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者がたたき台として記入した自己評価をミーティングにて全スタッフが関わり、目を通す様にし、評価から出た問題点について、業務改善に向けて討議・検討が行われている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2か月に一度、必ず行われており、会議には地域住民も参加し、グループホームの課題解決が討論されている様子である。その会議を活かす為に議事録も毎回作成されていて、スタッフとのミーティングに役立っている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の面会時には利用者の近況と共に、報告と話し合いが行われているが、家族側の遠慮もあるのか、グループホーム側の真意が必ずしも十分に伝わらず、家族の意見にズレも少し起きている。特に職員の人事異動時には、特別の配慮も必要である。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>併設のデイサービス、同一法人の地域包括支援センターや近隣児童館の小学生や中学生ボランティア、個人・団体ボランティアが、このグループホームに関わりを持っていて、地域との連携もしっかり取れていると思われる。さらにそれらが実現するための空間(2階大広間)もあり、地域に開かれたグループホームとして期待可能である。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人名と施設名に使われている『カリヨン』(組鐘)に象徴されるとおり、個性の違う一人一人がかけがえのない人間として、尊厳を主張し、手を取り合いながら命の豊かさが実感出来る施設として誕生したという理念を実現しようという姿勢にこだわりが感じられる。グループホームの玄関並びにパンフレットにもしっかりと掲示されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	交代勤務した担当者は、毎日の業務開始時には前日の業務日誌を読み、利用者の現状を把握するのに努めており、さらに月に一度の定期ミーティングでは、理念の再徹底を図る等、グループホームでのケアの向上にスタッフ一同理念実現への実践がされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	徒歩で15分程度にある児童館の小学生達が遊びに来たり、併設ディサービスの人達と少人数のグループで社交ダンスや大正琴等のレクリエーションを行ったりと、未使用の2階空間が格好のスペースとして活用されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年は、職員全員が自己評価に関わったが、それらを踏まえて今回は管理者がたたき台を作成し、全員ミーティングにて職員の思いを発表させ、まとめ上げる等全職員の参画を意図している。	○	ホームの提供サービスの『質向上』には、職員一人一人の創意と工夫がより必要であり、日常の業務改善は欠かせないものとする。その為にも自己評価は必修であり、評価結果がより活かされ更なる向上を期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者と家族、看護師・地域包括支援センター・町内会の人等も含めて、2か月に一度当グループホームの現状を知ってもらう機会と課題解決の場と位置づけ開催されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター主催による「いきいき元気倶楽部」(予防対象者)で、ディサービスの人と共に認知症予防の為に体操や学習会などを行っている。また、社協ボランティア担当者とも交流されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月一度、写真を多く載せ読みやすく配慮した「カリヨン便り」を家族に送ったり、面会時に利用者の様子を報告したりしている。遠方の家族に対しては、週に一度の電話連絡をしている。 金銭管理については、領収書・使用明細を送付し、個々に合わせた報告を大切にしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会頻度にはバラつきはあるが、面会来訪の都度、利用者の現況を報告する折に、家族からの要望・意見等を聞いている。	○	家族アンケートでは、家族への対応に職員間のばらつきが若干感じられるので、個人介護記録を提示して報告する等何らかの標準化することで、職員が報告したり説明したり(伝え方)の工夫等があれば、職員のばらつきが少なくなり、より相互信頼感と連帯感が生まれるものと判断できる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この1年、退職や法人内人事異動があったわりには、引継ぎも十分に為されたようで、影響は軽微で職員とも馴染んでおり、利用者は精神的にも落ち着いたホームの生活が為されている。	○	職員の人事異動について、利用者家族にも「カリヨン便り」で知らせると共に、ロビー・通路等に新担当者として写真掲示をして紹介する等の工夫を求めたい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の研修にも参加をして、パート職員も介護の基礎知識を勉強できるようになっている。研修後は全体ミーティング等で発表させて、研修内容を共有している。記録と職員の面談でも確認ができた。現在スタッフが1名少ない為に法人外の研修にはなかなか行けない現状もある。	○	人手不足を早急に解消し、職員がゆとりを持って研修等に参加できる状態を作り出すことを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年4月、愛知県認知症グループホーム連絡協議会に加入した。今後は同業者との情報交換や勉強会等を通じて人材育成への活用を考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	お試し期間の設定や併設のデイサービスから入居前の利用等から、グループホームの雰囲気や様子を事前に知ることから始まり、利用者家族の納得のうえサービスを受けられるよう工夫されている。現在の利用者、スタッフとの相性もよく考えて家族とも相談しながら入居を決めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事では下ごしらえをできる利用者全員で参加したり、スタッフの破れたエプロンを裁縫の得意な利用者が直したりと、利用者の持っている能力をしっかりと把握し、利用者スタッフの間で良い信頼関係ができています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と車に乗った時や、日々の会話から出た利用者の要望を冷蔵庫に貼ってある、「あつ」と思った気づきメモ」にすぐに書き記し、その日の業務日誌にも報告する等本人像をより詳しく正確に把握できるよう工夫されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者のことを知る手段として、「センター方式」の手法を取り入れたり、独自の工夫がある。介護計画を作るにあたっては、スタッフと話し合いのもと、「援助サービス計画書」を作成し、家族に同意と共にコメントをもらい、それから介護計画を立てるようにしている。家族とも連携した介護計画が作られている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現状をモニタリングして、変更した箇所等はインクの色を変えて、見直しについての修正は明確になっている。 家族には面会等で来所持説明し、理解と希望の聴取に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスとの交流があり、お互い会える機会を大切にしている。また、法人が委託されている「地域包括支援センター」主催の[いきいき元気倶楽部](介護予防事業)の行事にも当ホームの利用者も参加しやすいよう開催場所を提供している。母体施設である特養とは、職員研修や定期的人事交流で当ホームでのケアの質向上・維持に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループホームの嘱託医またはグループホームの嘱託医以外でも、希望すれば従来のかかりつけ医でも受診できるように家族と調整しながら柔軟な対応をしている。結果はその都度家族にも報告されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在のところターミナルの実績はない。今後グループホームでもターミナルの問題は各々スタッフが気持ちとしては覚悟をしているものの、実際どうすべきか関係者皆で協議をしている所である。	○	重度化や終末期(ターミナル)に向けた対応への仕組み作りを、同法人の特養等他部門の協力を得ながら取り組み、整備を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーについては、ミーティングや研修で学んでいて、尊厳を大切に声掛けが行われている。個人の特記すべき事柄を業務日誌に記入する際にはイニシャルを使用するなど工夫している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各人の日常的な生活リズムやペースを尊重しながら、自己決定を軸として個別性のある支援が行われている。 身の回り品やカーテン・食器にも個人の趣味・趣向が反映されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、調理、準備、後片付けの中で、利用者が各自できることに参加していて、メニューも皆で決めている。食事中も会話を大切にし、共に食事を楽しんでいる。加えて検食簿も記録されていて、食事の内容(味付け・盛り付け・軟らかさ・分量)を毎食チェックしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	起床時並びに入浴前のバイタルチェックによって、当日の入浴可否を判断し、毎日の入浴利用について本人希望も加味して実施されている。その為各人の体調も細かく記録として残してある。基本的に本人希望を尊重して入浴時期が設定されている。また、専従者(パート職員)を決めて、安全に留意しつつ会話を楽しみながらの入浴提供が為されている。	○	将来利用者が重度化(車椅子利用等)した場合の対策(職員配置体制等のソフト面やリフト等の設置などハード面の改良も含めて)を今から検討しておく必要がある。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	「気づきメモ」から把握した利用者特性を踏まえて、掃除、調理等、利用者ができそうなことにはスタッフと一緒に協力し合って生活をしている。女性の利用者が多い為、家事は得意としている利用者が多い様である。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物もレクリエーションと考え、業務日誌等の記録から利用者全員を交代でスーパー等へ買い物外出が出来る様にしている。また、TVニュース等で話題の場所があれば、積極的に出かけることも行われている。昨年冬にミッドランドスクエアへ、今夏はセントレアへ行った。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	平日は併設のデイサービスが行われているので、施錠はしないので、デイからの利用者や児童館の子供達が自由に入出りできている。 階段の途中にセンサーが付いていて、通過して外へ出ようとする事務所で解るので、自然な形で声かけをし近隣の散歩やデイサービスへの誘導をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	デイサービスと共に年に2回の避難訓練が行われているが、非常口までの移動のみである。現在、スプリンクラーの設置の準備中である。 地震対策として、玄関には利用者9名の3日分の食料と非常時用の道具が備え付けてある。また、運営推進会議では町内の人にも参加していただき、災害時対策が検討・討議されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録簿にて水分補給のチェックをしている。現在の利用者の中で、実際便秘が改善された例もある。また、検食簿の記録と共に利用者の好みも含め、メニューが考えられている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム建設時よりスタッフが関わり、壁紙の色を北と南の部屋で調整したり、居間には暖かみの感じる照明が使われたりしている。階段には利用者とスタッフが共同で製作した作品がにぎやかに飾られて、ホッとできる空間を作っている。利用者もその作品を自慢するほど気に入っている様である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋の扉の前には各自好みの「のれん」がかけられ、ドアが開いていても目隠し出来る工夫がある。部屋の中の家具は家族の意向で、新しい家具を使用している部屋が多かった。しかし、入居時にカーテンとベットカバーの色柄は各自が選べられるように工夫されている。	○	入居時、家族には伝えてあっても新しい家具等を用意してしまうとのことであったが、引き続き利用者にとって「写真」や「絵画」等で馴染みのある空間になるような工夫を求めたい。